

日本地衣学会

No.141

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次 会員通信	525
干支の地衣類. 一酉年—/原田 浩	525

会員通信 *From Members*

干支の地衣類. 一酉年—

Lichens of the Twelve Horary Signs 2017—year of the Cock./ by HARADA Hiroshi

>>>>>> 原田 浩：千葉県立中央博物館

年末が近づくと博物館では毎年のように、「干支に因んだ生き物」を題材にした小さな展示を用意することが多い、地衣類についても当館では何度か取り上げているし、本誌上でも取り上げたことがある。来年2017年は酉年ということで、本稿では鶏に因んだ地衣類を紹介するわけだが、その前に、十二支全てについてまとめてみよう。

子年（ネズミ）. 無

丑年（ウシ）. 無

寅年（トラ）. 無

卯年（ウサギ）. 無

辰年（竜）. タツゴケ *Sclerophyton elegans* Eschw.
(坂田・原田 2011)

巳年（ヘビ）. クチナワゴケ *Enterographa
anguinella* (Nyl.) Redinger

午年（ウマ）. ホグロタテガミゴケ *Alectoria
nigricans* (Ach.) Nyl. (坂田他 2014)

未年（ヒツジ）. 無

申年（サル）. サルオガセ（属）*Usnea* Dill. ex Adans.

酉年（ニワトリ）. ヒメトサカゴケ *Leptogium
lichenoides* Zahlbr., トリハダゴケ属 *Pertusaria*
DC.

戌年（イヌ）. イヌツメゴケ *Peltigera canina* (L.)
Willd.

亥年（イノシシ）. 無

このように地衣類を紹介できない年がかなり多いのは寂しい限りである。もし、追加すべきものがあれば、情報をお寄せいただきたい。

さて、気を取り直して、本題であるニワトリに話を戻そう。上述のとおり、2題について紹介させていただく。



図1. ヒメトサカゴケ (生態写真). Habit of *Leptogium lichenoides*.

1. ヒメトサカゴケ

(*Leptogium lichenoides* Zahlbr.)

地衣類ではニワトリ自体を冠した和名はない, その代わりに, 鶏のシンボルともいふべき「とさか」が和名に使われた地衣類をご存じだろうか?

その名は, ヒメトサカゴケ. イワノリ科アオキノリ属の一種である. 保育社の図鑑にも掲載されているが, 見たことが無い方が多いのではないかと想像する. 本種は石灰岩上の蘚苔類マットに混じって生えたり, 石灰岩のごく周囲の土上や蘚苔類上に生える種である. 国内では石灰岩の産出が限られるため, 見る機会はどうしても限られてくる. 逆に, 石灰岩地に行けば, 発見する機会はとても高まる.

さて, その生態写真(図1)を見ても, 「どこにアオキノリ属があるんだろう」という印象を持つ方も多

いだろう. 石灰岩上の蘚苔類マットに混じって生育しており, むしろ蘚苔類のほうが目立つ.

標本の写真を次のページに示したので(図2), そちらを見ていただこう.

Aは標本の全形で, やはり石灰岩上の蘚苔類マットに混生している. 大きく目立つのが蘚類で, ヒメトサカゴケは, 裂片の縁が細かく縮れていて目立たない. BとCは, 実体顕微鏡20倍で観察した画像の一部を示した. Bでは, 幅の広い裂片(と言っても幅1から2mm程度)と, その縁あるいは先端から分かれた幅のごく狭い裂片が繰り返し分枝し, しかも分枝の度に幅が狭くなっていくのが分かる. それが密集すると(C), その部分は樹状のように見え, 幅の広い裂片を覆い隠してしまう. さて, これのどこが「とさか」なんだろうか?

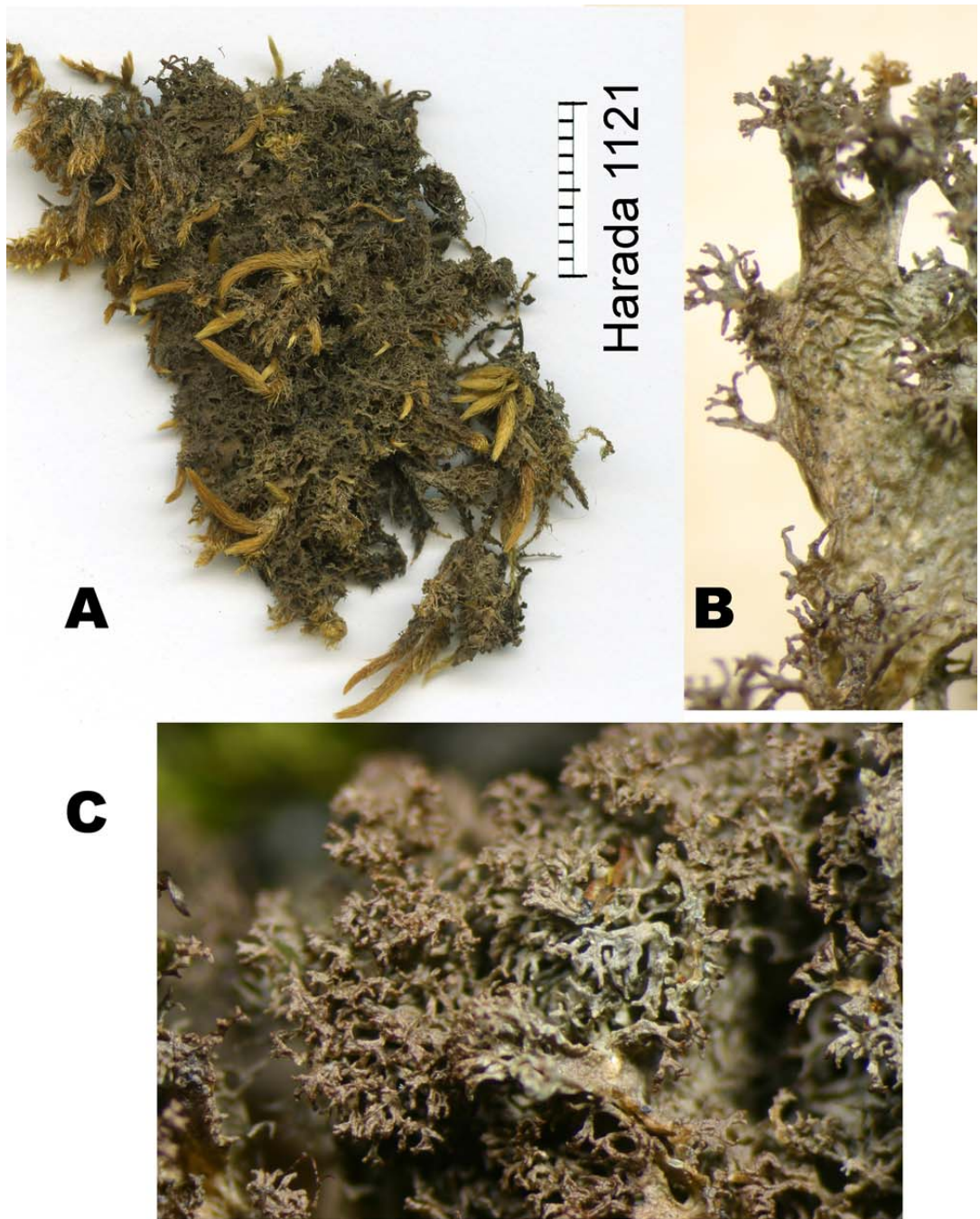


図2. ヒメトサカゴケ. A, 標本. B, 拡大写真(幅広い裂片と、そこから生じる狭い裂片を示す). C, 細かな裂片が集めた様子. *Leptogium lichenoides*. A, specimen; B & C, close-up.

和名の由来は、植物研究雑誌8巻9, 10号に掲載された朝比奈泰彦(1933a)の和文論文まで遡る。朝比奈(1933a)は学名として *Leptogium lichenoides* Zahlbr. var. *lophaeum* Zahlbr. を採用した。この変種のエピセツト「*lophaeum*」が鶏冠を意味するのだが、「変種名二因ンデひめとさかごけト命名シタ」と明記している。同号に掲載された英語論文(Asahina 1933b)の図を見ると、深く切れ込んだ鶏冠と見えなくもない。



因みに、蘚苔類にもヒメトサカゴケがある。

図3. ヒメトリハダゴケ(生態写真)。 *Pertusaria commutata* growing on tree trunk.

2. トリハダゴケ属

(*Pertusaria* Zahlbr.)

さて、もう一つ。トリハダゴケ属 *Pertusaria* を忘れてはならない(図3)。日本産地衣類のチェックリスト(原田他 2004)には 39 種が掲載されているように種数も多く、樹皮上にも岩上にも見られ、様々な環境に出現する。例えば、ブナの幹には必ずと言ってよいくらい出てくる、ごくごく普通の地衣類である。「酉年の地衣類は？」との問いには、こちらで答えるほうが説明しやすいかもしれない。

引用文献

- 朝比奈泰彦. 1933a. 藓軒独語(其五十)ひめとさかごけ On *Leptogium lichenoides* A. Zahlbr. var. *lophaeum* A. Zahlbr. 植物研究雑誌 8: (409)-(410).
- Asahina Y. 1933b. Notes on Japanese lichens. VIII. J. Jpn. Bot. 8: 41-42.
- 原田 浩・岡本 達哉・吉村 庸. 2004. 日本産の地衣類および関連菌類のチェックリスト. Lichenology 2: 47-165.
- 坂田 歩美・原田 浩. 2011. 干支の地衣, タツゴケ (*Sclerophyton*). 日本地衣学会ニュースレター(112): 413-414.
- 坂田 歩美・吉川 裕子・原田 浩. 2014. 干支の地衣, 「午(馬)」編. 日本地衣学会ニュースレター(122): 453-454.

●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 102号 378 ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 102, p. 378 of this publication.

● *Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 141, pp. 525-528: eds. Nakashima H., Bando M., Kawakami H. & Harada H., published by the Japanese Society for Lichenology, 26 Dec. 2016.

日本地衣学会ニュースレター 141号

発行日: 2016年 12月 26日

編集: 中嶋裕之・坂東誠・川上寛子・原田浩

発行者・発行所: 日本地衣学会

〒658-8558神戸市東灘区本山北町4-19-1

神戸薬科大学 薬化学研究室

©2016日本地衣学会 (© 2016 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。